会 議 録

会議の名称	令和6年 第4回茨木市総合交通戦略協議会
開催日時	令和6年8月22日(木) 午後3時00分開会 午後4時50分 閉会
開催場所	市役所南館 10 階 大会議室
議長	塚口 博司
出席者	(公募市民) 角谷 伸一郎、藤田 和宏 (学識経験者) 塚口 博司、猪井 博登 (公共交通事業者及びその運転者で構成された団体から推薦された者) 中嶋 和政、阿瀬 弘治、野津 俊明、田邉 勝己、田中 弥、 髙橋 光浩、堀内 隆彦 (福祉に関する団体から推薦された者) 六條 友聡 (公共交通に関わる特定非営利活動法人から推薦された者) 藤本 典昭 (関係行政機関の職員) 水野 洋幸、中村 洋一、江藤 良介(代理:井本)、佐々木 清、 前田 康晴
欠席者	中川 義彦、大前 利夫、釈迦戸 久夫【3人】
事務局職員	足立副市長、藤田建設部長、砂金建設部次長、西野道路課長、 山脇交通政策課長、谷山交通政策課長代理、戸田計画推進係長、 三浦、廣岡 【9人】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 今年度の検討予定(2) 昨年度の検討内容(3) 事業メニュー(施策・取組)の検討(4) 評価指標について
配布資料	資料1 配席図資料2 委員名簿資料3 説明資料資料4 施策整理表資料5 参考資料
傍聴人	3人

発言者	議題(案件)・発言内容・決定事項	
	(1)開会(足立副市長挨拶)	
	(2)公共交通部会の開催報告	
	(3)議事1:今年度の検討予定 議事2:昨年度の検討内容 議事3:事業メニュー(施策・取組)の検討 議事4:評価指標について 〔事務局より説明〕	
塚口会長	まず、資料3の1ページから7ページについて、ご意見はあるか。	
藤田委員	6ページの図に「丘陵部」とあるが、右側の取組には「丘陵部」の記載が 無く、取組イメージがわからない。何か規定した方が良いのではないか。	
事務局	丘陵部も平野部のように路線バス等が運行しているため、平野部に近い 考え方になると思う。しかし、171 号以北ではバス利用者が少ないため、山 間部と平野部の両方の視点から対応を検討すべき地域だと認識している。	
塚口会長	「丘陵部」と「平野部」について、図と表のカテゴリー分けが異なっていることから、わかりにくいとの指摘である。事務局で検討いただきたい。	
塚口会長	資料3の8ページから32ページについて、ご意見はあるか。	
江藤委員 (代理: 井本)	9・10ページに「ユニバーサルデザインタクシー等の導入促進」が新たに追加されているが、大阪府ではタクシー協会の協力を得て、国の定める導入率25%を目指し、万博開催に向け補助金を出している。市として、補助金等を想定されているのか。	
事務局	国と大阪府において、UD タクシー導入に係る補助制度を創設されていることから取組として挙げている。本市では、過去に同様の補助金を検討した経緯はあるが、現時点で市補助金を創設する予定は無い。	
江藤委員 (代理: 井本)	補助制度を創設するとなった場合、府補助との併用など、必要に応じて調整して欲しい。	
藤本委員	資料4参考資料の1ページにおいて、右下の自転車事故件数は過去10年で減少しているものの、ここ5~6年は下げ止まりし、特に令和4年から5年には20%増加している。茨木市内で年間300名以上が事故で負傷しているにも関わらず、総合交通戦略でハード・ソフトの新規施策が無いのは適切か。また、資料3説明資料の36ページにて、自転車関連事故件数の削減目標が5%に設定されているが、茨木市の自転車活用推進計画では自転車関連事故件数の10%減少が目標とされていた。数字の整合性と施策の見直しはこれでよいか。	

	議事の経過
発言者	議題(案件)・発言内容・決定事項
事務局	1点目について、令和4年から5年にかけての自転車事故件数の増加率が大きい要因は、外出頻度の増加と考えている。平成25年度に交通戦略を策定し、その翌年度に自転車計画を策定した。自転車計画の中間見直し時点で目標を大幅に達成できていることから、施策・取組の効果は一定あったと考えており、今後も同施策を継続していきたい。 2点目について、平成26年度以降の自転車関連事故の件数が大幅に減少しており、過去5年間の事故件数は横ばいの状態である。自転車活用推進計画と同じ10%減少は現実的ではないと考えており、5%減少という数値を挙げさせていただいた。
藤本委員	達成可能な目標を立てるべきだと思うが、自転車活用推進計画で 10%減少という目標を定めているため、その目標に向けて取り組むべきである。
塚口会長	猪井副会長の見解はいかがか。
猪井副会長	藤本委員の目指すべき目標として 10%減少は理解できますが、データに基づくと、減少は難しい状況である。10年前から見ると減少傾向にあるものの、令和4年から5年にかけて増加していることもあり、少なくとも自転車関連事故を増加させないという意味で5%の減少を設定することも妥当だと考えられる。
塚口会長	目標設定には、様々な考え方がある。藤本委員のご意見も踏まえ、事務局で対応を検討いただきたい。 目標設定は計画全体の可否にも影響する。目標値については、今後、他の視点からのご意見も含めて議論していき、その結果を踏まえ、事務局に検討いただきたい。
堀内委員	31ページの「多様な人材の確保」の17-3「自家用車活用事業による一般ドライバーの活用検討」について、自家用車活用事業は、「日本版ライドシェア」だと思うが、茨木市は現在、対象地域外と記憶している。将来的に対象地域になる可能性はあるのか、または市としてライドシェアを想定しているのか、施策14の「自家用有償旅客運送事業等の導入の検討」や、ボランティア的な地域住民による輸送としてのドライバーとの関連も含めご説明いただきたい。
事務局	施策 17 は、日本版ライドシェアであるが、課題が多く検討が必要だと考えており、まずは、取組 14 の自家用有償運送からと考えている。 現在、山間部において、地域住民と共に地域交通の検討を進めており、タクシーの配車や予約が困難であるため、不安を感じている住民が多く、自家用有償運送や地域内での共助について検討している。 日本版ライドシェアと自家用有償では運転手の収入面に違いがあり、将来的な輸送手段として可能性のある選択肢として挙げている。まずは自家用有償という、ボランティア輸送に近い形から検討をスタートすべきと考えている。

議事の経過	
発言者	議題(案件)・発言内容・決定事項
堀内委員	山間部における自家用有償運送は全国的に展開されており、茨木市で検討されることは理解できる。しかし、山間部や交通不便地域では、日本版ライドシェアよりもデマンド型交通などの手段を検討する方が良いと思う。
事務局	あくまで、手段の一つとして捉えている。
塚口会長	このような議論をする際は、ライドシェアや自家用有償運送といった施策をどの地域で行うのが適切なのか、地域区分と施策をリンクさせて考えた方が良い。その辺りをわかりやすく整理していただきたい。
六條委員	28 ページの取組 14-1「自家用有償旅客運送事業等の導入検討」について、山間部で公共交通の利用が難しい状況なのであれば、障害者だけでなく、移動が困難な高齢者もおられるのではないか。福祉施策として、介護タクシーや福祉有償運送の利用に係る料金の助成制度があるが、そのような制度を利用できない高齢者は、経済的に厳しいのではないか。山間部の交通施策に関して慎重に検討いただきたい。
塚口会長	交通政策には、福祉的な視点も必要であるが、交通政策自体は、福祉的 な取組ではない。六條委員の意見に対して、事務局から意見はあるか。
事務局	山間部だけでなく市街地においても、移動困難者へのきめの細かい対応 は難しいが、交通政策だけでは担えない部分については、福祉部局と調整・ 連携するなど対応を検討したい。
塚口会長	交通と福祉の境界に線を引くのではなく、その境目あたりが移動に不便 を感じている方にとって重要なため、柔軟にお考えいただきたい。
藤田委員	10 ページの施策 1 で、これは、阪急と JR 間のバス路線を効率化しようということか。
事務局	運転士不足の中で、JR 茨木駅と阪急茨木市駅の間は、3 社とも運行していただいているが、重複している路線を整理することによって、余剰運転士を他の路線に充てるなどの対応が期待できると考えている。また、中心部の交通量減少にも寄与する可能性があるため、検討できないかを部会で議論した。
藤田委員	利用者の立場から考えると、どのバスに乗っても、阪急と JR 両方に行ける方が、利用しやすく、乗継運賃割引も検討不要になり良いと思う。
塚口会長	両駅にどの車両も行くとなると、中心部の交通量が増える可能性がある のではないか。
藤田委員	交通量は増えると思う。両駅間を一方通行化し、車線を減らすことや、 環状道路で通過交通をなくす施策を合わせて、両駅間の活性化策として考 えられるのではないか。

	議事の経過
発言者	議題(案件)・発言内容・決定事項
塚口会長	重複するバス路線の効率化について、交通部会で議論され、困難な課題に対して正面からアプローチし、解決されようとしていることに敬意を表する。しかし、各バス事業者にとって、阪急と JR 間の乗客を確保することは経営上プラスであり、それを共同運行にすることがうまくいくかどうか。この効率化が実現すれば大きな変化が期待できるが、事業者は会社の利潤が必要であるため、調整は難しいと思う。事務局から意見はあるか。
事務局	両駅間のバス路線について、両駅ともに行けた方が良いが、運転士不足の現状では難しいと考えており、行政の関わり方も含め、重複する路線を見直し、バスを有効に運行する体系を考えたい。 以前、100円運賃や、乗り換えチケットの導入を検討したが、効果的ではないと判断している。一方通行の導入検討については、バスの運行に支障になることは避けたい。
野津委員	両駅間の3社が運行しているバス路線について、輸送力が過剰だと感じており、効率化が必要だと考えている。例えば、北からの車はJRで、南からの車は阪急で折り返し、その間は乗り換える方式で効率化が図れると思うが、3社の運賃システムや、定期券や回数券、乗換時に生じる追加の運賃など、多くの課題があり、すぐの実現は難しいと認識している。乗務員不足の状況にあるため、理想として効率化が実現できれば良いと考えている。
塚口会長	ぜひ実現可能な方向に議論が集約されればありがたい。
塚口会長	次の 33 ページから 37 ページについて、何かご意見はあるか。
藤田委員	1点目、市全体で一律の評価指標を用いるのではなく、「山間部」や「平野部」など地域ごとに異なる目標指標を設定するのが良いのではないか。全市ではなく、地域別の目標を持つことも検討すべきだと思う。 2点目、人口減少と鉄道・バスの利用分担率の増加を合わせた結果が、目標数値になるのかどうか検証が必要ではないか。単純に5%というより根拠のある数字の方が良い。自動車から公共交通への転換もあるため、目標値は、今よりプラスになると良いと思う。また、公共交通の分担率も22%に上がっているため、そのあたりも考慮するべきである。
事務局	公共交通の分担率及び公共交通カバー率について、地域別で算出することは可能である。数値を整理し、目標値として適切かどうか検討したい。 2点目について、5%増の目標を挙げさせていただいたが、人口減少率 を考慮したものではないため、検証したい。
事務局	今回、評価指標と数値目標を含め資料を作成したが、当初、施策や取組の提示までを想定していた。評価指標と数値目標の設定にあたり、事務局としても悩ましいところが多く、今回、案としてお示しした。各立場から頂いた意見を参考に、数値目標を精査していきたい。
塚口会長	目標値は、細かく分けても良いが、できるだけコストをかけず、できれば

	議事の経過
発言者	議題(案件)・発言内容・決定事項
	毎年取得できるデータを用いて目標を設定することが望ましい。あまり細かく分けすぎると負担が大きくなるため、バランスを考慮しながら検討して欲しい。
塚口会長	全体を通して、他にお気づきの点など、ご意見はあるか。 難しい質問や意見を頂戴した。事務局は、それらを十分考慮し、次のス テップに進んでいただきたい。
六條委員	資料3の24ページにある「道路空間の再配分」や「JR 茨木駅〜阪急茨木市駅の一方通行化」について、道路や歩道の利用については良い点もあるが、視覚障害者や移動困難者にとっては障害物となり通行が困難になる場合があるため、当事者も参画し、動向を見ながら計画を進めてほしい。また、29ページに自動運転の検討が書かれているが、過去に自動運転車と視覚障害者が接触した事例があるため、安全性や信頼性について十分に検討し、多くの意見を聞きながら進めてほしい。
塚口会長	自動運転などの技術導入にブレーキをかけることは社会全体として良くないと考えているが、技術だけが進み、周囲のシステムが整備されないのは良くない。特に、六條委員のご意見を十分に考慮し、施策を進めていただきたい。
塚口会長	その他、本日は、六條委員と中村委員から情報提供があるとお聞きしてい る。ご発言お願いしたい。
六條委員	配布資料のとおり、UDタクシー等体験乗車及び意見交換会を行った。
中村委員	障害者差別解消法が改正され、令和6年4月1日から事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されたことから、この場をお借りして情報提供させていただく。配布資料には、不当な差別的取扱いや合理的配慮の提供の具体例をお示ししている。
事務局	次回は、11 月 18 日に開催を予定している。後日、開催通知を送付させて いただく。
	以上